

学校教育ビジョン 【教育目標】「今も未来も 幸せになるために学ぶ 山中っ子の育成」 【キーワード】みんなが楽しい、みんなが成長できる学校をみんなでつくる  
 <目指す学校像> ○安全で安心して、楽しく学ぶことができる学校 ○子どもを主語に、教職員が協働して子どもの成長を支える学校 ○保護者・地域とともに創る開かれた学校  
 <目指す児童像> ○なりたいたい姿に向かってチャレンジする子 ○目標に向かって、自己調整して学べる子 ○他者と話し合い、問題を解決したり新しい考えを生み出したりする子 ○自分や友達の良さや成長を見つれたり、応援したりする子  
 <目指す教師像> ○愛情をもって指導し、子ども一人一人のがんばりや成長を認める教師 ○教育に対する使命感をもち、指導力の向上に努める教師 ○明るい笑顔で、コミュニケーションを大切にしている教師

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	子どもが主体となる授業づくりのための基礎基本の力の定着と授業改善を進める。	授業の中で習熟を確認したり、家庭学習の仕方を指導したりして、前学年までの国語・算数の基礎基本の力を確実に身に付ける。	教務主任 (近藤)	基礎基本の力の定着は個人差が大きい。そのため当該学年の学習内容の習熟に時間がかかっている。	【成果指標】 国語・算数の単元末テストにおいて、児童が、学年として必要な力を身に付けている。	国語・算数科の単元末テスト(知識技能)で80点以上の児童が A 85%以上いる B 75%以上いる C 65%以上いる D 65%未満である	1・2学期末単元末テスト(国・算)			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	児童が互いに尊重し、協力し合えるような温かい人間関係の中で、前向きに自分から行動できる活動の充実を図り、自己指導能力を育てる。	生徒指導の4つの視点を生かした授業づくり、目的・意義を明確にした特別活動、共感的人間関係を構築する場を設定し、自己有用感を高める。	生徒指導主事 (梶)	昨年度は、ScTNで「学校が楽しい」の項目に回答した児童の割合で評価していたが、肯定的な回答をした児童はあまり多くなかった。ScTNの中には、「学校が楽しい」以外にも、重点目標を評価できる回答があるので、今年度は自己有用感を高めていることができていたから評価したい。	【成果指標】 ScTNにおいて、自己有用感を評価できる(他者からの受容感・集合効力感)4つの項目で肯定的に回答している。	自己有用感を評価できる(他者からの受容感・集合効力感)の4つの項目で肯定的な回答が70%を超えている項目が、 A 4つすべて B 3つ C1~2つ D すべて70%以下	ScTN			
③キャリア教育・進路指導	自己理解を深め、自己肯定感を高める。	道徳や学活の授業を充実させ、自分や友達の良いところ気づくことができるようにする。また、キャリアパスポートを効果的に活用し、児童一人一人が目的意識をもって行事や学習活動に取り組めるようにする。	キャリア教育担当 (室木)	昨年度は、ScTNで「自分には自分なりのよいところがある」の項目において肯定的な回答をした児童の割合が53.7%だった。児童の頑張りを認める機会を増やし、子どもたちがチャレンジしやすい環境づくりに努めていく必要がある。	【成果指標】 ScTNにおいて、自己受容感の項目で肯定的に回答している。	自分には自分なりに「よい」と思えるところがあるに肯定的な回答をしている児童が、 A 75%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	ScTN			
④保健管理	睡眠の大切さについて学び、早寝早起きに対する意識を高める。	担任の日常的な声かけや指導に加え、養護教諭が指導を行う。また、学校保健委員会で保護者への啓発も行う。	保健主事 養護教諭 (西野)	過度なメディア利用等で睡眠時間が短くなり、生活リズムが乱れている児童がいる。	【努力指標】 早寝早起きを意識して生活しようとしている。	「早寝早起きを意識して生活しようとしている」と答えた児童の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	1・2学期取組チェック表			
⑤安全指導	学校安全計画に基づき、学校安全に関わる取組を実施し児童・教職員の危機対応力の向上を図る。	火災や地震等を想定した避難訓練や防犯教室を計画的に実施し、事前・事後の指導の徹底を図っていく。	教頭	計画的に避難訓練や研修を実施できたが、地震等の突発的な事態に備え、教職員、児童ともに危機意識をもって取り組みもしもの時に備える必要がある。	【成果指標】 児童が危機対応訓練に真剣に取り組めるよう指導している。	危機対応訓練に「真剣に取り組んだ」と答えた児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である	1・2学期事後児童アンケート			
⑥特別支援教育	全職員で児童の実態把握に努め、支援の必要な児童への適切な対応を図る。	特別支援コーディネーターを中心に、現状に応じて組織的な支援体制を計画・実施する。また専門相談員や特別支援教育地域アドバイザーを積極的に活用し、教職員の校内研修の機会を設け、支援や指導に生かしていく。	特別支援教育コーディネーター (宮西)	校内支援委員会で支援の方法を話し合っているが、支援を必要とする児童が多数おり、より効果的な支援体制や支援方法を検討する必要がある。	【努力指標】 校内支援委員会で検討し、組織立て適切な指導ができています。	支援を要する児童に、適切な指導を組織的に努めることができた職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である	1・2学期末教職員アンケート			
⑦組織運営・業務改善	業務の精選、勤務時間に対する職員の意識改革を進める。	時間外勤務時間が45時間を超えない働き方の意識を高め、業務改善につながる取組を全教職員で考え、試行し改善していく。また、マイ定時退校日と最終退校時刻を設定し、実施する。	教頭	業務の効率化等により、業務改善は進んでいる。しかし、毎月の時間外勤務が45時間を超える教職員はいる。自らの働き方について見直すとともに、組織としてさらに業務改善を進めていく必要がある。	【成果指標】 教職員が、効率的、効果的に業務を遂行している。	時間外労働時間が45時間以下となっている教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である	勤務時間報告			
⑧研修	校内研修に積極的に取り組み、児童が自分で考え、表現する授業づくりに努める。	国語の研究2年目として要請訪問や校内研修を行い、共通実践を通して、授業改善を行っていく。	研究主任 (小濱)	昨年度から国語の授業において、単元構想シートを作成し、つけたい力を明確にして教材研究を進めている。児童一人ひとりが興味や関心をもって取り組める授業や学習課題を作っていく必要がある。	【成果指標】 教職員が、要請訪問や校内研修などを通して授業改善に努めている。	授業では興味や関心に基づいて問いや課題を立てて学んでいると答える児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満である	ScTN			
⑨保護者、地域との連携	学習活動について、地域・保護者と連携し、開かれた学校を目指す。	学習の成果物や宿題等、学校での学びを生かして家庭で取組を行う場面を設定したり、CS等により地域の方の力を借りたりして、より良い学習活動に取り組む。	教頭	CS等地域と連携して取り組む学習が広がってきている。児童の主体的に学ぶ意欲を高めていけるよう、保護者とともに学習面でのつながりを深めていく。	【努力指標】 学習の中で、家庭や地域との連携を意識した取組を行っている。	授業等で家庭や地域と連携した取組を行ったと答えた教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である	1・2学期末教職員アンケート			
⑩教育環境整備	児童一人ひとりが安全安心で、主体的な学びへとつながれるよう、空き教室の教育環境の整備に努める。	空き教室を使って、児童の主体的な学びに応じたより多様な学習環境を整えていく。	教頭 事務 (村井)	各教室において、児童への合理的配慮の視点から学習環境を整えてきた。空き教室をうまく活用すれば、児童の主体的な学びに応じたより多様な学習環境が整備できる。	【努力指標】 多様な学習環境を意図して、空き教室を活用し教育環境を整備することができる。	多様な学習環境を意図して、空き教室を活用し教育環境を整備することができたと答えた教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である	1・2学期末教職員アンケート			

学校関係者評価	
---------	--